

学校番号	学校名	校長名
451	川崎市立川崎高等学校(定時制)	田中 弘司

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>「こころ豊かな人になろう」</p> <p>○ 自分の良さを伸ばし、将来の夢を見つめて、自分探しに取り組もう</p> <p>○ 自らの知識を求め、追及する課程を大切に、新たな課題に取り組もう</p> <p>○ 他を認め、思いやる心をつちかい、人類共通の課題に取り組もう</p>	<p>1. 生徒の潜在的な能力・可能性を引き出す指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりに応じた学習を展開し、基礎・基本の徹底に努めることで、自らの課題を克服する力や可能性を 追及する力の育成を図る <p>2. 自己肯定感を高め、進路目標の実現に向けて粘り強く取り組ませるための指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の実態や教育的ニーズを把握し、将来の社会的自立、自己実現を支えるきめこまやかな指導と支援を図る <p>3. 豊かな人権感覚と社会性を育む指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 仲間との心の触れ合いや感動体験などの経験の蓄積による幅広い社会性、豊かな人間性の育成を目指す <p>4. 居場所としての学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談支援体制の充実と心のよりどころとしての学校づくりを推進する

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	<p>学習指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習習慣の確立と基礎・基本の徹底、主体的な学びを促す学習指導を展開する。 ・少人数学習や習熟度別学習、また学校設定科目を設定するなど、生徒一人ひとりに応じた学習を展開し、基礎・基本の徹底を図る。 ・ICT等を活用した分かりやすい授業「思考力・表現力を高める授業」「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」を実践する。 ・学び方や学習方法の指導など学習ガイダンスを徹底し、自学自習の習慣を身につけることを通じて、進路目標の到達、自己実現を支援する。 ・生徒一人ひとりの進路目標(自己実現)の達成に向け、進路目標到達への課題に対応する力を育成するよう、個々の実態と教育的ニーズに応じたきめ細かな学習指導、学習支援を行う。 	<p>○英語科は1年次、数学科では1、2年次に少人数授業を展開し、国語科においても1年次でチームティーチングを取り入れ、可能な限り個に応じた指導を心がけ、基礎・基本の学習の充実を図る。</p> <p>○ワークシートや板書の工夫をし、ICTを活用しながら、協働的な学びを取り入れ、生徒の理解力と集中力を高める。</p> <p>○高校入学前の学習内容の復習に始まり、高校の学習内容へ段階的に指導を行い、生徒が学習を通して達成感を得、意欲的に学習に取り組めるよう努める。</p> <p>◆生徒の学習到達度が幅広く、さらに個に応じた指導が求められる。</p> <p>◆特別な支援を要する生徒については、関係する職員や特別支援・教育活動サポーターらと連携を図りながら対応した。</p> <p>○日本語指導非常勤講師を配置していただき、日本語を母語としない生徒が学校生活や日常生活をはじめ、高校卒業後の生活も円滑に過ごせるように日本語指導以外でもきめ細かな支援をした。</p> <p>◆生徒のGIGA端末の学習での活用方法が各指導者任せで不安定に学校生活を送るようになり、多くの教職員が年間を通して始業前や放課後、休憩時に生徒に寄り添い、見守る時間を確保した。</p> <p>○生徒の小さな変化を見逃さないよう努め、課題がある生徒とは迅速に面談等を実施し、ケースに応じて保護者と情報を共有し生徒指導に当たった。</p> <p>○生徒が自主的に活動できる場を整え、生徒同士が響き合い、社会性を身につけられるよう創意工夫を重ねた。</p> <p>○保健講演会(「コミュニケーションについて」)、薬物講演会、性教育講演会を実施し、生徒の自尊感情を高め、命の大切さを理解する機会を設けた。</p> <p>○スクールカウンセラーや外部機関と連携し、支援の必要な生徒との個別相談を重ね、課題の解決に取り組んだ。</p>	<p>■教職員が生徒を理解し、授業力をさらに磨くために、校内での相互に授業を観察しあう期間を設定するなどし、学校全体で授業研究に取り組む。</p> <p>■支援を要する生徒の指導により適切に取り組めるよう、生徒支援委員会やケース会議の定例化を図り、外部機関とも連携して生徒の発達段階に応じた指導に努める。</p> <p>■日本語を母語としない生徒への日本語指導や学習支援を日本語指導講師と協力しながら今後も丁寧に進めて行く。</p> <p>■職員のICT活用や生徒のGIGA端末の活用に関する校内研修を推進し、活用能力の向上を図る。</p> <p>■生徒の実情に沿った教育課程になっているか、常に検証しながら編成を行っている。</p>
2	<p>生活指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別活動の活性化、望ましい集団活動を通して、豊かな人権感覚と社会性を育む指導を展開する。 ・他者との心の触れ合いや感動体験活動等を通じ、連帯意識や所属意識を醸成する。 ・日常生活を通して、生徒が適切な規範意識や心身の健康を保持できるような指導を展開する。 ・生徒自身では解消できない課題に丁寧に寄り添い、関係機関とも連携しながら組織的な検討、対応を図り、健やかな自己形成を促すような指導を展開する。 	<p>○保健講演会(「コミュニケーションについて」)、薬物講演会、性教育講演会を実施し、生徒の自尊感情を高め、命の大切さを理解する機会を設けた。</p> <p>○スクールカウンセラーや外部機関と連携し、支援の必要な生徒との個別相談を重ね、課題の解決に取り組んだ。</p>	<p>■引き続き、高校生の今日の課題に即した保健講演会等を開催する。</p> <p>■生徒が安心安全の中で過ごせるように、職員が身近な立ち位置で生徒を見守れるより良い体制の検討を継続していく。</p> <p>■生徒の居場所作りと自立支援のために行われてきた外部団体との連携事業を継続し、より実効性のあるものへと展開する。</p> <p>■スクールカウンセラーとの面談希望生徒が増加傾向にあることから、十分な面談機会を持つよう校内で工夫する。</p> <p>■職員を対象に、人権、多文化共生、特別支援教育、SNSの課題など、今日の生徒指導上の課題をトピックとした研修会を引き続き開催する。</p>
3	<p>進路指導・キャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ○計画的・組織的な進路指導を推進し、生徒一人ひとりの実態とニーズに応じた指導を展開する。 ・進路ガイダンス、進路講演会、職業体験等の進路啓発行事を最適学年で計画・実施し、一層の内容充実を図り、生徒の進路意識・職業意識を高める。 	<p>○年次に応じたキャリア教育プログラムを実施し、生徒が自分自身を見つめ、職業観を養い、人生設計について考察する機会を設けた。</p> <p>○外部と連携しながら、生徒の自立に欠かせないコミュニケーションスキルやソーシャルスキルに関わるワークショップを継続的に実施した。</p> <p>○外部団体の協力の下、校内の施設を利用し、放課後の生徒の居場所作り、学習支援や自立支援を継続して行った。</p> <p>◆様々な背景を持つ生徒が増える中、進路指導やキャリア教育のプログラムの展開をより個別に対応できるように変えていく必要がある。</p> <p>◆日本語コースの生徒向けの進路指導も今後行っていく必要がある。</p>	<p>■支援を必要とする生徒の把握を1年次より行い、中長期的な視点を持って必要な支援・指導を計画的に進めていく。</p> <p>■1年次より自身の進路を考えさせるようなキャリア教育計画を再検討する必要がある。</p>
4	<p>教育環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習活動が安心・安全かつ円滑に行われるよう施設の管理運用を組織的・計画的に行う。 ○清掃活動や校内美化活動により、自ら学習環境を整える態度、節制や公共心を育成する。 ○高校全日制・定時制・附属中学校・南部地域療育センター合同の全館防災訓練を実施し、災害時における生徒一人ひとりの防災意識を高める学習や訓練を行った。また、非常用備蓄品の整備を行った。 ○不審者侵入対応の職員研修を高校(全定)で行い、危機管理の共有を図った。 ○本校の特色・魅力を具現化する教育過程の見直しを検討した。 	<p>○附属中学校・高等学校全日制と施設利用を調整しながら円滑に教育活動を行うことができた。</p> <p>○施設管理室との情報共有を常時図り、校舎内の施設の維持・美化に努めた。また、生徒の清掃活動等により、公共心の育成を図った。</p> <p>○防災・防犯訓練や研修によって、防災や防犯に対する生徒や教職員の意識が向上した。</p> <p>○学校外における学修の単位認定について改定をおこなった。</p>	<p>■今後も附属中学校と高等学校全日制と綿密に連携し、教育活動に支障がないよう施設利用を行っているとともに、連携による相乗的な教育効果についても検討していく。</p> <p>■引き続き防災・防犯の意識を各教職員が持ち、安全な教育環境を維持していく。</p> <p>■3年選択科目の内容等、生徒の実態に合わせて今後見直しを検討する。</p>
5	<p>学校事務</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公金の適正な管理と計画的・効率的な予算執行を行う。 ・管理職、職員等との連携と情報の共有を図りながら、学校財務の効率的な運用を図り、教育効果の向上及び適正な教育条件の整備に努める。 ○校舎及び体育施設における備品等の適正管理を行う。 ○教職員の福利厚生等に関する事務の適性処理を行う。 	<p>○校内の各組織の代表者からなる予算委員会が今年度予算を執行すべきものの優先順位を検討し、適切な予算執行を行った。</p> <p>○ペーパーレス化を推進し、経費削減に取り組んだ。</p> <p>○就学支援金、奨学金給付金に係る諸手続を担当事務職員が精力的に行い、生徒が経済的に安心して学校生活を送ることができるよう支援した。</p> <p>○担当事務職員と教職員が協力して、公費で購入した備品を台帳と照らし合わせ適切に管理した。</p>	<p>■学校運営費については、教職員の共通認識のもと、適切な予算編成と効率的な執行に努める。</p> <p>■引き続き、印刷費の節約に努めるなど、職員の儉約意識を高め、公費が有効に利用されるよう取り組む。</p> <p>■諸経費納入、就学支援金、奨学金給付金の事務処理については、引き続き事務職員と教職員の連携を密にし、迅速かつ円滑に執り行われるよう取り組む。</p>
6	<p>学校組織</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公開授業や研修会などを通して、指導力を高める取組を推進する。 ・各教科等において、生徒の思考力・判断力・表現力等を育むために有効な手立てとなる、言語活動の充実を図る取組を進める。 ・各教科・科目の特性に応じた適切な学習形態のあり方を研究、実践するとともに、生徒の実態や思いを的確に捉え、さらなる指導方法の工夫改善につなげる。 ○学年・校務分掌等の業務の課題等の整理を行い、一層の業務円滑化を図る。 ・常に改善の視点を持って業務にあたり、これまでに蓄積されたノウハウがより有効に活用されるよう分掌のあり方を整理する。 ○校内コミュニケーションを通じた相互協力や連携に基づく協働体制の確立を図る。 ・全職員が一致協力して計画的で継続的な教育活動を展開し、円滑な校務運営にあたる。 ・生徒、保護者、地域から信頼される学校であるよう、教職員の資質向上を図り、生徒が生き生きと学べる学校づくりを推進する。また、学校情報を積極的に発信する開かれた学校づくりを推進する。 ・教育公務員としてその職責の重さを自覚し、言動が生徒の範となるように、普段の自己研鑽及び研修に努め、職員の間人権・教育力を高める。 	<p>○近年の本校の状況に合わせて学年や校務分掌の組織改編を行った結果、それぞれの分掌業務を組織的・効率的に行えるようになった。</p> <p>○各分掌や学年団の代表者からなる校務運営委員会を毎週開催し、校務に関わる迅速な意思決定や円滑な校務運営がなされた。</p> <p>○分掌の各業務の内容が職員全体に共有され、組織としての透明化を図ることができた。</p> <p>○学校ホームページの更新が随時可能になったことで情報のアップデートをタイムリーに行うことができたが、今後は広報のツールとしての活用方法を検討していきたい。</p>	<p>■引き続き分掌の業務内容の分担が適切かどうか検討を続ける。</p> <p>■教職員の資質向上に向けて、高等学校における今日の課題を主題とした教職員研修を複数回実施する。</p> <p>■組織として風通しのよい協力し高め合える職場づくりを引き続き目指していく。</p> <p>■学校ホームページの内容、更新時期や頻度に関して改善するなどし、開かれた学校づくりを目指す。</p>

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>・パソコンを活用した授業は、パソコンのスキルを身につけられるし、学びを深めることができるようになった。</p> <p>・面談の回数も多く学校行事にも参加することができ、保護者が学校を知る機会がたくさんあることがいいと思っている。</p> <p>・何かあれば必ず保護者に連絡報告をしっかりとしてくれて、つながりが保たれていると感じる。</p> <p>・保護者も参加できる進路説明会がとても良かったと思う。</p> <p>・深夜近くに帰宅したりすることが頻繁にあるので、余裕のある時間で帰宅するよう全員に指導してほしい。</p> <p>・複数の自転車であつた下校する姿を見かけるので、ヘルメットの着用を含め、継続的な交通安全指導をお願いしたい。</p>	<p>・引き続き個に応じた丁寧な学習指導を展開し、基礎・基本の徹底に努めることで、生徒自らの課題を克服する力や可能性を追求する力の育成を図る。</p> <p>・生徒個々の進路希望に応じながら、家庭とも連携を図り、進路実現に向けて、今後も生徒の視点に立ったキャリア教育を推進する。</p> <p>・外国につながるのある生徒と特別な支援を要する生徒への支援体制の確立及び卒業後の生活と自己実現を視野に入れた指導の充実を図る。</p> <p>・校務の細部に渡り簡略化・効率化を図り、教職員が生き生きと働ける職場であるよう、働き方改革を推進することで、生徒への学習・生活指導の更なる充実を図る。</p>